



左から、福田代表、板倉校長、堀川学校司書



市立文関小学校

今回のまちの主役は、令和3年度に文部科学省の「子供の読書活動優秀実践校」に選ばれ、大臣表彰を受けた文関小学校です。

**保護者や地域の方
と共に子どもたち
を読書の世界へ
始まりは保護者の声から**

文関小学校では、朝学時間に、保護者や地域の方による読み聞かせが行われています。今からおよそ20年前、現校長の板倉先生が同校で1年生を担当していたとき、保護者の福田さんから「学校で読み聞かせをしたい」との申し出を受けたことが始まりです。そして、福田さんを代表とするおはなしの会「こんぺいとう」が設立されました。

福田さんは「絵本作家のすてきな絵と耳から入る言葉の心地よさを、たくさんの子ども



▲コロナ禍で対面形式の読み聞かせが行えず、タブレット端末と電子黒板を使い、リモート形式で実施。

たちに、ぜひ経験してほしいです」と話します。

行きたくなる学校図書館

同校で読み聞かせが継続される中、学校司書の堀川先生が着任。その後再び板倉先生が校長として着任し、読書活動を教育課程の大きな柱としました。その方針のもと、堀川先生のさまざまなアイデアによって、子どもたちを学校図書館に導いてきました。

例えば、児童が6年間、読んだ本の記録を蓄積した「読書通帳」を卒業記念品としてプレゼントしています。また、「ブラインドブックの本のお薬」では、本を包んで内容が分からないようにして、お悩みの症状（疲れている・胸キュンキュンしたいなど）に合わせて本を処方箋として貸し出しています。

現在は他校4校で勤務し、



▲読書通帳と校章&校訓入りしおり



まちかどボイス

今月のテーマ 私の暑さ対策



▶保護者懇談会の待ち時間に、親子で取り組めるミニイベントを学校図書館で開催。



◀2分の1成人式で、音楽家を招いて音楽とコラボした学校司書による読み聞かせを実施。



▶本来は、東京での表彰式に参加する予定でしたが、コロナ禍のため欠席。教育長室で伝達式が行われました。

市内小中学校に読書活動を広めている堀川先生。平成30年度から3年間勤務した文関小学校での児童との思い出を話してくれました。

「本のお蔭で、5月になると『疲れている』ときに読む本を借りていく子どもが多くなります。『早く元気が出るといいね!』と声かけをすると、うれしそうに本を抱えて帰って行きます。癒しを求めてくる子どもも多いので、学校図書館には可能性がたくさんあると思っています」

持続可能な活動を

同校は、長年の活動が評価され、令和3年度「子供の読書

活動優秀実践校」に選ばれました。板倉校長は「文関小学校創立150周年の年に表彰を受け、光栄です。本校は、昭和45年にPTA優秀校として全国で表彰を受けるなど、学校と保護者が協力して子どもたちの健やかな育ちを支えていく環境があります。持続可能な活動をしていくためには、協力者をつなぐことが必要です。興味をもたれた方はお問い合わせください」と話し、今後の活動の発展に期待をしています。

問い合わせは、文関小学校 (☎222-1433)へ。
▼同校ホームページもご覧ください。



編集後記

■下関のふくの技術が、外国から来た技能実習生を通じて世界に広がっていくのだと知り、誇りに思いました。(ひ)

■文関小学校の「図書館に足を運びたいくなるような仕掛けや仕組み」を長年&地道に続けてきたことが素晴らしいと思います。(に)

■一読者として何気なく見ていた市報ですが、このたび作者側になりました。見やすい紙面をお届けできるよう、がんばります。(み)